

旧都城市民会館保存訴え

宮崎でシンポ 専門家交え価値見極めを

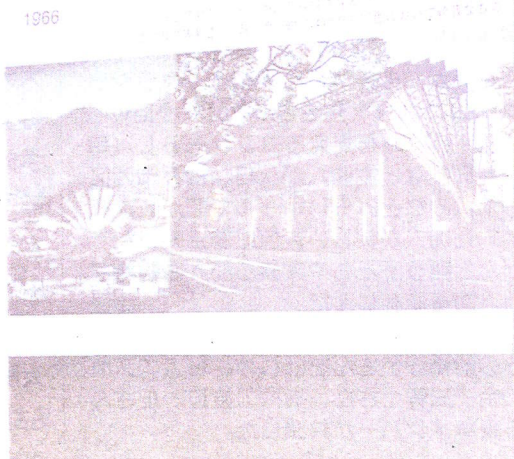
戦後日本を代表する建築家の故菊竹清訓さんが設計した宮崎県都城市の旧市民会館の保存を考えるシンポジウムが14日、宮崎市であり、国際NGO「国際記念物遺跡会議」(イコモス)日本理事の山名善之・東京理科大学教授が「国内に残る同時期の現代建築と合わせて世界遺産登録を目指すべきだ」と訴えた。

旧市民会館は1966年に開館し2007年に閉館した。菊竹さ

んが黒川紀章さんらと提唱していた建築運動「メタボリズム」時代の作品として知られるが、今月末までに民間からの活用提案が市になければ来年度中に解体される予定。

どまらず「家文化を交えて文化財としての価値を見極めるべきだ」と主張。将来、世界遺産の構成資産の一つになり得る可能性にも言及した。

【塩月由香】



旧都城市民会館の価値を解説する山名教授